

第II卷・第4號

近畿甲蟲同好會

(通卷第6號)

會報

昭和22年9月

昭和二十二年九月二十一日印刷
昭和二十二年九月二十五日發行

兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
編輯兼 大倉正文
發行人
大阪市旭區御森小路中二丁目九四
印刷所 宏榮社印刷所
兵庫縣川邊郡寶塚御殿山
大倉正文方
發行所 近畿甲蟲同好會

VOL. II, NO. 4. THE KINKI COLEOPTEROLOGICAL SOCIETY SEP. 1947

吉丁虫雜記 (I)

黒澤良彦・伊賀正汎

BUPRESTID NOTES (1)

By. Y. KUROSAWA & M. IGA

私等の今までに知り得た吉丁虫の知識は極めて淺く未だ解決せねばならぬ問題も多いが一應今後上記表題の下に日本を含む廣く東亞の吉丁虫に就いて思ひつくまゝに書綴つてみたい。勿論東亞と云ふものゝ日本其他舊日本領の吉丁虫が主題となるのは當然ではあるが、本文を草するに當り常々御懇切な御指導御援助を忝なうしつゝある九州帝國大學農學部昆虫學教室の江崎悌三、安松京三兩先生及び白水隆氏並びに貴重な標本の御惠贈御貸與を賜つた諸氏に深甚の謝意を捧げる次第である。

I. 日本未記録のチビタママシの一種に就いて (On an unrecorded species of the Genus *Trachys* FABRICIUS from Japan.)

日本にはその狭小な面積に比較して *Trachys* 屬は種類多く、記載された種類だけでも (但し從來 *Trachys* 屬中に包含されて居た *Habroloma* 屬を除く) 1指を屈するに餘りあり、之に未記載、未記録の種を加へれば其の數は二十種に達するのではないかと考へられる。

茲に私等は日本に比較的廣く分布するが未だ其の種名の一般に知られて居ない本屬の一種に就いて報告する。

Trachys minuta (LINNE, 1758) ヤナギチビタママシ

Buprestis minuta LINNE, Syst. Nat., ed. 10, I, p. 410 (1758).

Brachys salicis LEWIS, Journ. Linn. Soc. Zool. London, XXIV, p. 337 (1892) (syn. nov.).

産地：1雄，1雌，青森縣八戸市 (IX. 1944, 鈴木孝太郎採集)；1雌，山形縣酒田市 (13. VI. 1937, 鈴木孝太郎採集)；2雄，山形縣山形市外千歳山 (11. V. 1940, 黒澤良彦採集)；2雌，同前 (9. V. 1941, 黒澤良彦採集)；2雄，2雌，山形縣米澤市外斜平山 (12. V. 1940, 黒澤良彦及千葉常彦採集)；1雄，1雌，同前 (23. V. 1943, 黒澤良彦採集)；1雄，1雌，山形縣吾妻山麓 (1. VI. 1941, 黒澤良彦採集)；1雌，新潟縣佐渡金北山 (4. VIII. 1940, 伊賀正汎採集)；7雄，5雌，新潟縣佐渡高千村 (27. VII. 1947, 伊賀正汎採集)；1雄，東京都豊島區東長崎 (17. VI. 1933, 荒木東次採集)；1雄，1雌，東京都板橋區江古田 (12. V. 1940, 田添大三郎採集)；1雄，東京都小下澤 (15. V. 1941, 宮田俊一郎採集)；1雌，長野縣飯田 (10. VIII. 1942, 井内忠義採集)；1雄，京都府嵐山 (10. V. 1943, 伊賀正汎採集)；1雄，大阪府矢田 (23. IX. 1943, 谷口和義採集)；1雌，奈良縣入之波 (29. VII. 1943, 矢野由雄採集)；1雌，鳥取縣大山 (17. VII. 1947, 河野洋採集)；1雌，福岡縣福岡市外若杉山 (1. V. 1932, 白水隆採集)；1雄，福岡市外犬鳴山 (27. IV. 1933, 白水隆採集)；1雄，1雌，福岡市外立花山 (14. IV. 1946, 黒澤良彦採集)。

分布：全歐洲，西比利亞，アムール，滿洲，日本（北海道，本州，九州）。

本種は體長 3.0~3.6mm. 黒藍色乃至黄黒色の地色をした翅鞘に銀白乃至銀灰色の波狀毛斑を装ふ小型の美麗種であるが，變化多く其の地色及び被毛の有無に依り若干の異常型が記載されて居る。但し此の被毛は剝脱し易く之の有無に依り區別する事は全く不可能である。歐洲の殆ど全土から東西兩西比利亞を通り廣くアムール，滿洲までも分布して居る種類であるが，日本からは從來 *T. salicis* LEWIS (ノミチビタマムシ) の名で知られ *minuta* の方は全く記録の無かつたものである。日本では主として中北部の諸地方に多いが，上述の様に九州でも北中部に分布する。私等は北海道及び四國の標本を検する事が出来なかつたが，井内孝彌氏に依り旭川から記録されたアカガネチビタマムシ (*T. medita* SAUNDERS, 實は *inedita* の誤) は明かに本種であるし，矢野文彦氏よりの曾つての私信にも同氏は北海道産の本種を所藏せらるゝ旨述べられてあつたので本種が北海道に産するのは確實である。又 Lewis の *salicis* の原産地が宮ノ下，須走，京都であるので北海道から九州に亘る日本一圓に分布するらしく，四國にも必ず産するものと確信して居る。大陸に於ける分布はアムール，ウスリーから滿洲の北部にかけ記録があり，南滿洲から記載され朝鮮からも記録のある *T. mandjurica* OBENBERGER (Wiener Ent. Ztg., XXXVI, p. 218, 1917) も或ひは本種の synonym かさもなくば一亞種又は變種ではないかと考へられるが，何しろ大陸産の標本を僅かしか檢して居らぬので何とも決定することが出来ぬのは残念である。又 Lewis が日本から記載した *T. salicis* はその形態，被毛及びその寄主植物まで完全に本種に一致するので私等は *salicis* を本種の synonym として取扱つた。

本種の寄主植物は歐洲では *Salix caprea*, *Salix aurita* 等主として柳屬であるが，

1) 井内孝彌：昆虫界，Vol. 8, p. 279 (1940)。

Corylus avellana (ハシバミ屬の一種) をも食すると云ふ。日本では早春より出現し、東北地方では *Salix vulpina* ANDREWS(キツネヤナギ); *Salix bakko* KIMURA (ヤマネコヤナギ) 等柳屬の葉上にも見られ、私等は本屬以外の植物から採集したことがない。關西や九州でもやはり *Salix* sp. の葉上で採集した。

本種の發生に就いて注意すべき點は、本種には少數ではあるが秋9月頃發生する個體のあることである。

尙本種の翅鞘の地色が著しく青味を増し、銀白色波狀帶を殆ど缺如し、更に前胸背板の赤味が稍々強くなつた個體を *ab. poecilochroa* OBENBERGER (Arch. f. Naturg., LXXXII, A, II, p. 46, 1918) と云ふ。黒澤は之に相當する1雄を山形市外千歳山で1940年5月11日に採集した。

又本種の和名に就いてはノミチビタママシは不適當と思はれるので三橋信治氏が氏の目録中に用ひられた *salicis* の和名ヤナギチビタママシを採用した。

II. *Agrilus ajax* KERREMANS (シラホシナガタママシ) 並びに *A. alazon* LEWIS (ヨツボシナガタママシ) に就いて (On the synonymy of *Agrilus ajax* KERREMANS and *A. alazon* LEWIS) (Plate I)

我邦に於いて *Agrilus ajax* KERREMANS (シラホシナガタママシ) なる種が圖示されたのは比較的最近の事で加藤正世氏に依るものが最初であるが、餘り一般の注意も惹くに到らなかつた。其後1938年に福井縣博物學會に依り日本産の標本に基く最初の *A. ajax* と同定された種が圖示され、更に最近に到り平山修次郎氏に依り臺灣産 *ajax* の見事な原色寫眞が掲げられるに及び急激に一般の注意を喚起し、此の *ajax* と同定された種が東京以西の各地で採集される様になつた。

然し私等は以前より日本で *ajax* と稱せられて居る種が Lewis の *Agrilus alazon* の記載に完全に一致するのに氣附いて、*ajax* は *alazon* の一亞種とすべきものではないかと考へて居たが、他の研究の爲に兩種の詳細な比較検討をせず今日に到つた。今回暇を見て其の雌性交尾器の比較をすることが出來、更に中條道夫氏並びに同氏を通じてパリ博物館の A. Thery 氏の意見をも伺ひ得て益々その考へを強くした。

即ち私等は此の考の下に臺灣産 *ajax* と日本産 *alazon* の相當數の個體を比較した結果、

I.) *A. ajax* KERREMANS, 1912 (シラホシナガタママシ)

- 2) 三橋信治: 病虫害雜誌, Vol.6, p.272 (1919).
- 3) 加藤正世: 分類原色日本昆虫圖鑑, IX, pl. XXIX, fig. 13 (1933).
- 4) 福井縣博物學會: 原色福井縣昆虫圖譜, pl. 南系種, fig. 9 (1938).
- 5) 平山修次郎: 原色甲虫圖譜, p.70, pl. XXVII, fig. 1 (1940).

1. 前胸背板は美麗なるエメラルド様深青色に輝く。翅鞘は暗青色，青銅色を帯び緑色を帯ぶること少きも個体に依り全体著しく黒色味を帯びるものあり。

2. 翅鞘の白毛紋は銀灰色を帯び稍々鮮明を缺く。第一及び二紋は特に小型。

3. 体下は青銅色光澤を有する青色。

II.) *A. alazon* LEWIS, 1893 (ヨツボシナガタマムシ)

1'. 前胸背板は金緑乃至銅緑色に輝く。翅鞘は深緑乃至青緑色，僅かに青銅色を帯ぶ。

2'. 翅鞘の白毛紋は濃く鮮明，銀灰色を呈せず，第一及び二兩紋共に顯著。

3'. 体下は金銅色乃至明るき真鍮色，青味を帯ぶることなし。

等の諸相違点を見出す事が出来たが，何れも色彩上の相違で，兩種の間には何等の構造上の差異を見出し得ず，且つ上記の色彩上の相違も3, 3'を除いては何れも中間型の存在に依つて連続するので臺灣の *ajax* は明かに日本に産する *alazon* の一亞種と認むべきである。尙圖に示した様に兩種の雄性交尾器の形状も大同小異で個体變異の範囲を出ず，判然とした區別が認められない。

日本では *alazon* は *Celtis sinensis* PERSOON var. *jaпонica* NAKAI (エノキ) に寄生するので臺灣の *snbsp. ajax* もやはり *Celtis* 屬に寄生するものであらふとは推察出来るが未だに不明である。

因に私等の檢した兩亞種の標本は下記の様なものである。

1. *A. alazon* LEWIS

1雌，四國愛媛縣(詳細不明)(18.VI.1941)；2雌，徳島縣劍山(I.VIII.1943, 河野洋採集)；1雄，1雌，同前(I.VIII.1943, 平田信夫採集)；3雄，2雌，福岡縣福智山(18.VII.1943 松田勝毅採集)；1雄，3雌，同前(5.VIII.1943, 本田昭臣採集)；1雌，福岡縣英彦山(17.VII.1929, 江崎悌三及藤野政雄採集)；1雌，同前(10.VI.1945, 江崎悌三及安松京三採集)；4雄，2雌，熊本縣内大臣山(17.VII.1919, 矢野宗幹採集)；1雄，大阪府箕面(2.VI.1940, 伊賀正汎採集)

2. *A. alazon ajax* KERREMANS

1雄，4雌，臺灣臺中州三角峰(VI.1941)；1雌，臺中州博里社(V.1942)；1雄，1雌，同前(5.VIII.1940)；1雌，同前(3.VII.1912)；1雄，1雌，同前(24.VI.1941, 矢野由雄採集)；2雌，同前(VII.1941, 余寛採集)；1雄，同前(25.V.1941, 矢野由雄採集)；1雌，臺中州眉溪(18.VIII.1937)；1雄(産地日附等不明)；1雄，臺中州獅子頭(24.VII.1941, 余寛採集)

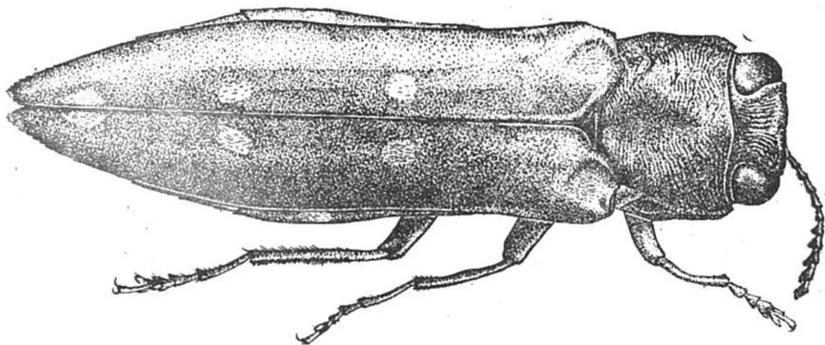
alazon にはヨツボシナガタマムシと云ふ和名があるが此の名は本種には不適當であるし，一般には *ajax* のシラホシナガタマムシの方が親しまれて居るから *ajax* が *alazon* の亞種とされるなら兩方共にシラホシナガタマムシと稱した方がよからうと思ふ。

兩種を整理すれば下記の如くである。

Agrilus alazon LEWIS

シラホシナガタマムシ

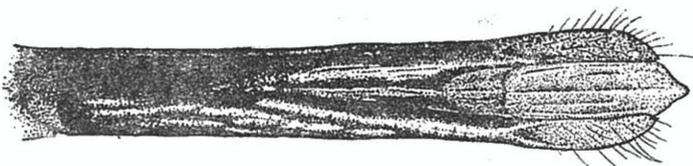
A. alazon



The male genitalia of
1. *Agrius alazon* Lewis
2. *A. alazon ajax* Kerremans

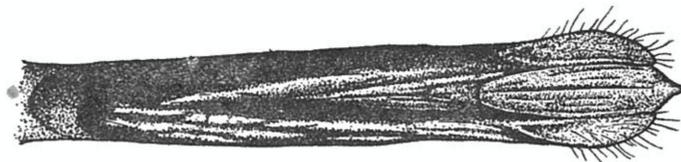
A. alazon

1



A. ajax

2



Agrilus alazon LEWIS, Journ. Linn. Soc. Zool. London, XXIX, p. 333 (1893).
Agrilus ajax NAT. HIS. SOC. FUKUI PREF., (nec KERREMANS) Nat. Colour.
Ill. Ins. Fukui Pref., pl. fig. 9 (1938).

Distr. : Japan (Honshu, Shikoku, Kyushu).

Agrilus alazon ajax KERREMANS

Agrilus ajax KERREMANS, Archiv f. Naturgesch., LXXVIII, A, 7, p. 207 (1912).

Distr. : Formosa.

(Aug. 1947)

本州未記録の花天牛一種に就いて 黒澤良彦

Oedecnema dubia (FABRICIUS, 1781) (モ、プトハナカミキリ, アシプトハナカミキリ) は本邦領土内では従来北海道のみから知られ、本種が本州に産するであらふと想像する人は無かつた様である。ところが故荒木東次氏は1944年6月中旬に群馬縣戸倉で本種3雌を採集せられた。私は此の標本を拜見した折に直に本種である事を確認したのであるが、標本が全部雌ばかりで他種に比し最も顯著な特徴を具へる雄標本を缺いて居るので雄の採れるまでその發表を差控へて居た。ところが其後あの大空襲となり此の標本は焼失し、荒木氏も惜しくも故人となられ本種が本州に産すると云ふ證據は完全に消滅してしまつた。

私は此の荒木氏採集の標本に基き本種が尾瀬を中心とする地方に6月頃發生するだらふと見當をつけ、本年(1947年)6月尾瀬の北側に當る福島縣南會津郡の湯ノ花温泉に出かける折本種が採れるものとひそかに期待して行つたのであるが、案の如く到着第一日目の14日にその1雌をヤマニンジン (*Anthriscus sylvestris* HOFFM.) の花上に發見し驚喜し、越えて20日に今度は1雄をやはりヤマニンジンの花上に捕へ茲に本種が本州に産すると云ふ確證を得ることが出來た。その詳細な産地は次の通りである。

1雌, 福島縣南會津郡館岩村湯ノ花渡澤溪谷入口 (14. VI. 1947, 黒澤良彦採集)。

1雄, 同上 瀧澤溪谷 (20. VI. 1947, 黒澤良彦採集)。

同地でも個體數著しく尠く9日に亘る滞在期間中僅かに上記1雄, 1雌きり採集出來なかつた。憶ふに今まで本州に産するのが知られなかつた理由は此様に個體數が尠い上に出現期が短く且つ早い爲であらふ。

尙私は茲に故荒木東次氏の遺志を繼ぐ事が出來たのを慶ぶものである。

チュウジョウハナカミキリ 九州に産す 中根猛彦

學友衣笠憲士君が去る8月私に提示された標本の中で九州で採集されたと云ふ1頭のチュウジョウハナカミキリ *Strangalina chujoi* MITONO があつた。標本をおあづかりして調べてみたがまさしく同種と考へられるのでこゝに新分布として記録する。

1雄；九州鹿児島縣 Takeoka ； 5. VI. 1941； T. Kusumoto leg.

ウスチャジャウカイの學名 中根猛彦

この種は横山博士の日本の甲虫や神谷・安立兩氏の甲虫圖譜に圖示されてゐて *Cantharis ciusiana* KIESENWETTER が學名として用ひられてゐる。しかし實際に原記載に當つてみると、之は全く誤であつて、*C. ciusiana* なるものは胸背が半圓形に圓まつてゐて背面中央が暗色を呈してゐる。ウスチャジャウカイの學名には *C. insulsus* (HAROLD) を用ひるのが妥當である。

訂正一件

編輯係

會報第II卷第1號8頁、東勝公氏の記事(附圖)は1)でなく2)に附くべきでありました。著者並びに會員諸實にお詫申上げ訂正致します。

原稿・短報募集

同好會

會員數も皆様の御好意により漸次増加、會報も順次圓滑に發行出来る様になつて参りました。振つて研究・觀察の結果を發表致されたし。

會費の御拂込について

會計係

會費の御拂込には「兵庫縣川邊郡寶塚御殿山 大倉正文方 近畿甲虫同好會」振替口座大阪121,157番を御利用下さい。但し拂込手数料御加算願ひます。